

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	ひろしまオペラ・音楽推進委員会	
施 設 名	アステールプラザ	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業	
内定額（総額）	17,778	(千円)
公 演 事 業	16,960	(千円)
人材養成事業	818	(千円)
普及啓発事業		(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オペラ公演「イドメネオ」	平成30年9月22日、23日	【出演者・スタッフ等】 指揮／下野竜也、演出／岩田達宗、出演／矢野勇志、山岸玲音他	目標値	1,600
		大ホール		実績値	1,085
2	Hiroshima Happy New Ear	平成30年5月18日、12月14日	【出演者】太田真紀、大石将紀、荻原里香、小川裕雅及び上野由恵、中川賢一	目標値	280
		オーケストラ等練習場		実績値	271
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	1,880
				実績値	1,356

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	人材育成事業	平成30年12月16日、平成31年2月23日	演奏会／クリスマスコンサート、修了演奏会 出演／ひろしまオペラルネッサンス合唱団	目標値	459
		大ホール		実績値	407
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	459
				実績値	407

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

広島市は、中国・四国地方で最大の人口を有し、その中心都市として経済・文化の牽引役を担っており、最大の特徴は世界史上初めて核兵器（原子爆弾）で爆撃された都市として、世界的に高い知名度を有している。

こうしたことから、都市像に「国際平和文化都市」を掲げ、世界の国・人との連帯による世界恒久平和の実現、豊かな文化と人間性を育む都市づくり、文化芸術をはじめとした様々な分野で活発な国際交流や国際協力を推進し、世界に開かれた活力ある都市を目指しており、当劇場はこれの実現を目指す文化芸術の中心的な役割を発揮する必要がある。

当劇場では、『文化芸術を創造し、感動と希望をもたらす地域文化の拠点として、個性と魅力ある都市文化を形成する創造劇場』を目標に掲げ、「賑わい」〈人々が集い、繋がる〉、「文化創造」〈文化・人材を育成・創出〉、「地域文化」〈地域に根差した取り組み〉を取り組み方針に、文化芸術の振興、地域文化の振興、地域の活性化、都市のシティセールス、地域の文化・生活・経済・教育等の発展を図り『個性と魅力ある都市文化の形成』を目指して事業を構成している。

具体には、オペラ、演劇、バレエ、コンテンポラリーダンスのジャンルを取り上げ、当劇場において練習から公演までを行うプロデュース公演を中心に計画的に事業を組み立て、地域に根差した魅力ある創造事業に取り組み、広島市の目指す都市づくりに貢献した。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

当劇場のプロデュース公演とこれに附随するワークショップ等では、国内で活躍するトップクラスの指導者を起用することから、広島市内在住者のみならず近隣都市からも多数の参加者があり、近隣都市圏を含めた文化発展の牽引役を担っている。また、豊かな文化が育まれる都市として高レベルの文化創造活動が行えることは、平和な世界に暮らしていることに喜びを感じることができる都市の証であることを発信している。



オペラ公演「イドメネオ」



演劇公演「顔も、声も」

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

文化活動の場の提供や質の高い文化芸術の創造、これに親しむ機会の提供などにより豊かな文化環境を創出する。「国際平和文化都市」として平和の象徴という理念のもと、文化発信や交流を図り、文化の創造と発展に寄与する。

このため、「賑わい」〈人々が集い、繋がる〉、「文化創造」〈文化・人材を育成・創出〉、「地域文化」〈地域に根差した取り組み〉を取り組み方針として、〈創る〉〈育てる〉〈観る〉〈支える〉をキーワードにそれぞれが互いに関わり、繋がる取り組みを行う。また、鑑賞した観客が、広島で創られるオペラ等の活動や公演を広島の「誇り」と思えるよう、レベルの高い創造活動を行い、地域の芸術活動に貢献すること。そして、これらの取り組みを人材育成にもつなげていくことを目標とした。

助成対象事業においては、次のとおり目標を達成した。

■公演事業

・オペラ公演では、魅力あるオペラのまち広島を目指し、全国レベルの指導者やスタッフにより、市民が誇りに思えるレベルの高い公演を制作し提供することができた。また、高レベルの公演を毎年継続して行うことで、音楽のあふれるまちとしてアピールできた。

・現代音楽公演では、国際的な奏者に加え地元打楽器奏者とのセッションを行い、互いに刺激を受けた。また、日本初演の作品を提供したことで全国的にも稀有で貴重な芸術音楽を示すことができ、現代音楽を通して魅力あるまちの創出に貢献することができた。

■人材育成事業

・オペラ公演の専属合唱団では、優れた指導者からの高度なレベルでの指導を受け、オペラ公演や演奏会に出演し、地域に還元する芸術創造活動に貢献することができた。

・子どもオペラワークショップでは、優れた指導者とともに、地元オペラ歌手をサポート役として起用し、次世代を担う子どもに貴重な機会を提供することができ、将来の歌手や観客の育成に貢献することができた。



オペラ公演「イドメネオ」



子どもオペラワークショップ

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

■公演事業

○事業期間について

・オペラ公演は、地域に根差した創造活動と位置づけており、オーディションから公演まで半年間かけて取り組んだ。この期間、キャストの個別練習、そして演出家や指揮者は公演1か月程度前から広島へ滞在しての稽古と拠点性を発揮し計画通り進行した。
・現代音楽事業は、5月と12月の2回開催し、5月開催公演については、前年度から仮チラシ等による広報物の配布を行うなどの工夫を行い取り組んだ。地方では聴くことの少ない現代音楽を年間2回程度継続して開催してきたことで、広島に新しいジャンルの音楽芸術を定着させることに貢献している。

○事業費について

・オペラ公演は、全般的には概ね計画通り経費を執行した。広報はSNSを活用し積極的に取り組んだが、無名作品にチケット販売は苦戦し、予算額を下回る結果となった。しかし、広島発の本格的な「オペラ・セリア」公演が、広島の音楽文化に歴史を刻む公演となった成果は大きい。

・現代音楽事業は、計画通りの予算執行であり、世界最前線の芸術音楽の公演は、世界へ芸術文化を発信する広島にとって有意義な事業であった。

■人材養成事業

○事業期間について

・合唱団の育成は、年間を通して原則週1回の練習を行い、オペラ公演への参加やクリスマスコンサート、修了演奏会の開催と年間を通じて有意義な活動を行った。

・子どもオペラワークショップは、夏休み期間に2日間、体験と発表のプログラムで実施し、体験型として適正な内容であった。

○事業費について

・優れた指導者を招いたオペラ専属合唱団の育成・運営は、レベルの高いオペラ公演へ貢献した。また、能力向上向け研鑽を積んだ修了発表会の開催と、効果的な予算執行であった。

・子どもオペラワークショップは、経験豊かな指導者と地元オペラ歌手を複数名アシスタントに起用することで、参加した子どもたちに目配りが行き届き、参加者の満足度が高い内容であった。



合唱団クリスマスコンサート



合唱団修了演奏会

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

広島市の文化拠点として存在するためには、文化を創造発展させ魅力的な個性を発揮する活動の「場」、そして市民文化の創造と発展の象徴のシンボルとして、市民の誇りとなる文化芸術の「創造活動」のそれぞれが効果的に行われる必要がある。

当劇場の設備は、大・中のホールその他に上演形式にとらわれずに使用できる多目的スタジオ、そして中四国で唯一のプロオーケストラである広島交響楽団の専用練習場として使用されない時には室内楽の演奏会や市民オーケストラや合唱の練習などとしても利用できるオーケストラ等練習場といった上演会場を有するだけでなく、実演芸術の創造活動に欠かせない練習室や音楽室といった練習会場機能を併せ持っている。

事業体系としては「音楽」「演劇」「ダンス」を柱にし、現代音楽やコンテンポラリーダンスなど新しい文化の創造にも挑戦し、広島市の文化シンボルとして相応しい事業を展開した。取り組みにおける特徴として《創造》《育成》《提供》《普及》の4点に分類することができる。具体的には《創造》は優れた演出家等のスタッフによる高水準の「プロデュース公演」をオペラ、演劇、バレエ、コンテンポラリーダンスにおいて制作。《育成》は「研修事業」として、オペラ研修、演劇学校、バレエ・ダンスワークショップを開催。《提供》は演劇、ダンス、オペラ、クラシック音楽、伝統芸能等の公演を、共催も含めて多数の鑑賞機会を市民へ提供。《普及》は文化芸術の普及・啓発を行い、文化芸術への理解・関心の促進を行うため、オペラ出前コンサート、オペラコンサートを開催した。

これら事業において、オペラ公演では、広島交響楽団の音楽総監督に就任した下野竜也氏を初めて起用し、モーツァルト作曲「イドメネオ」の広島初演を制作・公演し、広島オペラ界の歴史に残るものとなった。演劇事業においては、劇作家協会の新人戯曲賞を受賞した地元の演劇人を戯曲・演出として起用し、演劇界で売り出し中の蓬萊隆太氏を監修に迎えて創作作品を制作・公演した。現代音楽事業は、日本人作曲家として現在最も世界的に活躍している広島市出身の現代音楽作曲家、細川俊夫氏を音楽監督に迎えた演奏会を年2回程度のペースで開催しており、25回を迎えるまでに育てることができ、地方都市において創造性の高い貴重な事業として国内から高い評価を受けてきた。バレエでは、谷桃子バレエ団所属の日原永美子氏を起用し、オーケストラを編成しての創作作品を制作・公演した。コンテンポラリーダンスは、コンドルズを主宰し近年では俳優としても活躍する近藤良平氏の構成・振付による創作作品を制作・公演した。いずれの公演も、指導者が広島へ滞在して劇場でじっくりと制作する手法であり、文化拠点としての機能を十分発揮した創造性の高い公演となった。

また、中四国唯一のプロオーケストラである広島交響楽団は、国際平和文化都市、広島のプロオーケストラとして「音楽」に「平和」の願いと祈りを託すことを理念に活動する団体として、平和貢献を行うとともに、地域に根差した活動を行っている。当劇場はこの団体の活動基盤となる練習会場として活用されており、定期演奏会の練習の一部は市民に公開されている。

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

当劇場での事業の取り組みは、オペラとクラシック・現代音楽においては、マスコミや行政、音楽関係者からなる委員会を組織し、事務局をアステールプラザに置いて運営しており、地域団体のニーズと要求に応じている。また、演劇やバレエ・ダンスにおいても、広島演劇協会や広島市バレエ協会といった団体との共催により実施しており、地域ニーズを踏まえた実演芸術の振興と地域文化の発展に寄与しているものと考えている。

【創造性】

自己評価



オペラ公演「イドメネオ」



演劇公演「顔も、声も」



バレエプロデュース公演



現代音楽公演



コンテンポラリーダンス
プロデュース公演



0才からの広響ファミリーコンサート



子どもオペラワークショップ



管楽器クリニック「ミニコンサート」

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

当劇場の運営に係る主な業務は、「使用許可」（諸室の貸出、受付、利用案内等）、「施設・設備の維持管理」（駐車場、施設・設備の保守、設備機器の運転操作、警備、清掃等）、「広報」（施設案内パンフレット作成、ホームページの運営等）、「ホール管理」（利用打合せ、舞台設備の操作・管理等）、「事業の実施」（オペラ、クラシック・現代音楽、演劇、バレエ、文化情報の収集等）と多岐にわたっている。

これらの業務を安定的・継続的に行うためには、職員の能力向上はもとより、職員一人ひとりの勤務意欲と能力を一層向上させるなど、人的資源を最大限活用していくシステム作りが必要と考え、次の視点を持って運営に当たることのできる人材の育成を目指している。

「文化芸術全体への理解・知識・愛情があること」。

「事業制作、舞台管理・操作、施設運営、庶務経理等の分野でプロフェッショナルな経験・スキルを有していること」。

「来館者、利用者に安全かつ気持ちよく利用（来館）いただけるサービス業であるという意識で日頃の運営等業務にあたること」。

また、施設運営に当たっては、財源の確保が重要課題である。このため、利用者のニーズを踏まえ、施設利用に関する情報の提供やニーズに即したサービスを行い、多くの皆様に当施設を地域の文化拠点施設として利用していただき、施設利用料や鑑賞料収入を確保し、安定した施設運営と事業運営を行うため、次のサービスに取り組むなど収入の確保を図っている。

・ホール利用について、キャンセルが生じた場合は、ホームページでキャンセル情報を周知。

・ホールで、仕込み・リハーサル・本番と連続して利用しなければ公演が成立しない利用については、連続利用の優先予約制度を導入。

・大規模事業の優先利用の制度を導入し、大規模大会の誘致。

・ホールの空きを有効利用するため、2か月前など一定の期間を経過した場合は割引で提供。



全景



大ホール